

2025年7月

癸・未・六白金星

執筆…石川 享佑

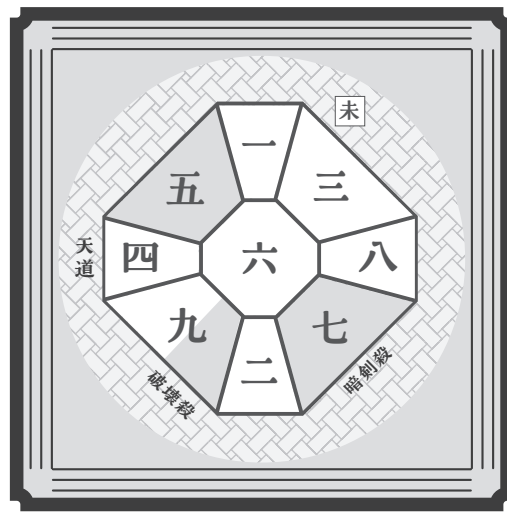
月全体の運勢のポイント

(二〇二五年六月十日執筆 文章内は敬称略)

公転をやめた世界

「コメなら売るほどある」と言った江藤前農水相が辞任を余儀なくされた。ピンチヒッターとして登場したのが小泉進次郎農水相で、彼もまた登場した途端に「長野では2,000円代でコメが売られるようになった」という発言をしてしまい、袋叩きにあっている。

世の中全体がうまくいっていないときには、えてして「叩きやすい誰か」を叩こうとする。今回はその対象が江藤前農水相と小泉農水相となったわけだ。だけど、こうした程度の低い批判をしているだけでは、一向に日本の農業は良くなるらない。もっと大局を見て、政治家の動きとこのを見なければならぬのでは



ないか。

小泉農水相と言えば、三十代のときには自民党の農林部会で全国の田んぼを駆け回っていた人だ。まだ、評価はできないとはいえ、そういう意味では適任だと思う。

ちなみに失言で辞任した江藤前農水相は、宮崎出身で、実はかなり長い間農林畑を歩んでいた人だ。二〇一〇年に宮崎で発生した口蹄疫に対処する際には、

野党議員にも関わらず「口蹄疫対策特別措置法」の立法を提唱し、与党の民主党を説き伏せて、法案の成立にこぎつけた。そこには「族議員」らしい利権にまみれた雰囲気は無く、誠実に地元や地方というものに向き合う政治家の姿があった。今回の辞任は、その失言に至るまでもいくつかエラーがあったから仕方無しとはいえ、地元の農家の人にとっては大事な大臣を失ったと言えるだろう。

石破政権にとっては痛い江藤の辞任だっただろうが、ある意味、総裁選後、最前線を離脱していた小泉を表舞台に引っ張り出すのには最高の口実になったとも言えるのかも知れない。支持率の低迷を打破するには、これ以上無いカードだ。

小泉は自民党農林部会長を勤めていた二〇一六年、安倍政権下で設置された規制改革推進会議と同調し、JA改革に乗り出す。小泉のJA改革の肝はJAバンクを農協と切り離すことだった。

農協というのは、歴史的には確かに重要な役割を担ってきた。ただ、それもすでに昔のことだろう。今、農協は高利貸しに成り下がっている

と言っても良い。農協の組織でまともな利益を上げているのは農林中金だけと言っても過言ではなく、その他の組織は「おまけ」「お荷物」と言える有り様だ。もはや農協は「農家の協同組合」としての役割を果たしきれず、農家に対する貸付で利ざやを得ている状態なのである。いや、悪質というか「ずるい」と思うのは、「農協」と言っている割に、農家以外にも貸し付けて、また口座を作らせているのである。JAバンクと農林中金の貸出残高の合計は40兆円を超える。うち銀行でさえ、貸出残高は8兆円に過ぎないというのに、もはやメガバンクとさえ言えるレベルの金融機関なのだ。また、農協は農作物の流通を押さえている。金融と流通という、二つの巨大な力を持っていることで、その強力な参入障壁を作っているの

ある。その市場独占が資材の高騰につながる。農作物の段ボールというのは、やけに固くリサイクルセクターに持っていくのに一苦労だ。この段ボールもJISの規格ではなく、「JA規格」であり、農家は我々のような小売業者が購入するような安い段ボールではなく、無駄に高くて丈夫な段ボールをJAから購入せざるを得ない。肥料も農薬も、日本産のものは海外の同等のものと比べて倍から数倍する。それぞれの市場占有率は八割と六割。普通の業界なら、独占禁止法でペナルティを食らいそうなレベルだ。合法なのだろうから問題は無いのだろうが、農家の協同組合が農家を苦しめるような価格で販売しているのだから笑えない。JA全中の山野会長は「これまで長年にわたり米価は生産者のコストを賄うものになっていなかったのであり、今回の上昇した米価は高くない」と述べたけれど、生産者のコストをそもそも高くしているのは、JAのこうした体質ではないのか。

かつて、小泉はこのJAを改革するために、その力の源泉である「金」と「流通」を切り離そうとしたが、残念ながら失敗に終わった。

自民党を批判するために、一部野党が「農家の時給は十円！」と叫んでいたが、これは卑怯なレトリックだろう。この論説は農水省「営農類型別経営統計」を元に行っているようだ。この統計はその計算方式に問題というか「騙されかねないルール」が存在する。農家の平均時給を計算する際に、分子からは「雇った人の給与」は除しているにも関わらず、分母には「雇った人の人数」を含めている。分母が大きく、分子が小さくなれば、値は小さくなるに決まっている。それを是正して数値を出せば、規模によって異なるが大規模農家なら時給は2,000円を超えるし、中規模であっても1,000円は大きく超える。時給の安さが問題となるのは小規模の農家だけ。しかも小規模の農家というのは兼業農家も含まれる。赤字となっているのは

0・8ヘクタール未満の農家の層だけなのだが、このほとんどは「兼業農家」であろう。

兼業農家がなぜ赤字なのに農業を営むのか。全てとは言わないが、僕が今まで友人や顧客として知り合った兼業農家の方のほとんどは「店で買うより、自分で作った方が安い」という理由に過ぎなかった。しかも、サラリーマンであれば、確定申告で赤字分を申告すれば、給与から引かれた源泉所得税を取り返すこともできる。完全週休二日制で、先祖代々の土地があれば、田舎だったら二束三文で農地を売るよりも農家を引き継いで自給自足しながら節税をした方がマシだろう。

だから、実際に「農家は儲かっていない！」と大声で叫んでいるのはごくわずかな人々なのだろうが、それをさも「農家のみんな」に主語を拡大させて報道しているのはどうなのか。僕の伯母の旦那には農家の人がいたが、その人の歯は全部金歯だった。成金臭さがどうにも好きに

なれない人だったけれど、これが農家のリアルな所得の感覚だろう。

にも関わらず、JAは「農家は飯が食えていない！だから米価は下がらない！」と主張する。僕自身も農家の人に利益が行くのは良いことだから、別に大きく値段が下がる必要は無いとも思っているが、よかれと思って受け入れた米価の高さが、実はJAが高コスト体質の日本の農業を自らの利権のために守っているのを応援しているだけだとしたら…。

それ以外でも、減反政策で農地を減らし、減らされた農地は宅地転用させアパートを建てさせる。その全てに農協が絡んでいるのは、利権を貪っていると見られても仕方ない。

JAさえ無くなれば、日本の農業政策が上手く回り出すとは思わない。様々な事象が複雑に絡みあうこの現代において「〇〇さえ」なんていう考え方は、そもそも無理がある。

しかし、かつて山本七平が「日本の組織は公転をやめて自転を始めてしまう」と述べたように、JAに

限らず、どうしてこうも日本の組織は「自分主体」で回るのか。今月は六白金星中宮。六白金星は「大」で

あり「天」である。こうしたスケール感を持つ人が、日本からはいなくなっただのか。まずは小泉がそうした胆力を持つか。国民としては十分に見極めたい。ポエムだけをあげたらって「やいのやいの」騒いで叩き始めたら、この人が積み上げてきた農業への知識が無駄になりかねない。小泉対農協の第二ラウンドを見守ろう。

癸というもの

今月の十干は「癸」である。説文解字注に「癸はこれ揅るを言うなり。萬物の度を揅るべしを言う」とあるように「はかる」が元々の意なのだろう。「揅」は「やり」であり、古来、尺を「はかる」のに使ったのである。また「みずのと」は「水の途」に通じる。説文解字注にも「水四方より地中に流入する形を象どる」とあるが、おそらく後代になって水が四

方から流れ込んできて、その道筋がよく見えるという意味も付されたのではないかと思う。

以上から、癸の今月は①人間や国家の度量をはかる②攻撃性が高まる③水が四方から流入するよう

に、流れが一つにまとまりはじめ、世界の行き先が見え始める、そんなひと月となりそうだと予測する。

すでに小泉の「人物をはかる」ことの重要性は述べた。さらに今月は参院選がある。ギリギリまで分からないとはいえ、以前より本誌で述べているように衆参同日選挙は無いと執筆段階では睨んでいる。そして、これも以前から述べているように、自民党の勝利もない（しかし、小泉があとひと月でどのような働きを見せるかによって、議席数は大きく変動するだろう）。さて、国民はどのような尺度で立候補者を、そして政党を「はかる」のだろうか。

今回も投票率は高まらないのだろうか。先に行われた韓国の大統領選は投票率が79・4%だったと聞く。

まだまだ民主主義国家として日本よりも歴史は浅い国ということ差し引いても、日本国民の投票率の低さは目立つ。あまりにも情けないというか、悲しいというか。

鑑定士として、一番いけないことは「自信を持って鑑定を断行『しない』こと」だと思う。本誌を読まれている方は、ぜひ、いや、必ず投票に行ってもらいたい。自身の鑑定を断行するのである。それが「当たり」でも「ハズレ」であっても、結果を受け取らないことには鑑定は前に進まないのだから。

国家間の距離の測り合いも熾烈を極める。五月十日頃にジュネーブで合意した米中の関税の取り決めは、舌の根も乾かないうちに反故にされ（たと、互いが互いを批判している）、相変わらず小競り合いは続く。

そして、本項を書いている今日はドイツのメルツ首相とトランプ大統領の「第一ラウンド」の火蓋が切って落とされる。トランプは「EUとアメリカの間の貿易赤字の主因はド

イツ」とまで言っているのだから、かなり強い態度で交渉に臨むんだろう。まさに槍を互いの喉元に突きつけたような状態で交渉は進むと思う。しかし、世界中を敵に回して、トランプという男は「タフだな」と思う。どこから、こんなにあらゆるものに噛みつく力がついてくるのか。そうこうしているうちに、アメリカの景気はグイグイ悪くなっているのに、とことん「他人のせい」にして、責任をなすりつけては「勝利」と叫ぶのだろう。

そうした中、トヨタ自動車は「関税で高騰したコストは、全てトヨタが吸収する」と発表した。トランプ関税は国内産業の保護を謳い文句にしてきたが、当然ながら、アメリカ一国で全てを賄えるわけがない。というよりも、「付加価値の低い製品は、人件費の安い発展途上国に作らせて、自分たちは美味しいところだけやろう」という本音を「グローバル経済」というお題目を掲げて推進してきたのはアメリカだ。だから、

自動車の部品なんかを製造するだけの工業力はアメリカに残っていない。したがって、当然ながらアメリカの自動車メーカーは海外からの部品供給を受けざるを得ず、そこにかける関税は商品の価格に転嫁される。価格を高くせざるを得ないアメリカの自動車メーカーに対して、お値段据え置きのとヨタ。どうやらトヨタはトランプ関税さえも追い風にして、いっそうシェアを拡大させることだろう。トヨタにとっても北米市場は「絶対に負けられない」マーケットだけに、その本気度が見える。それにしても、トヨタという会社の度量は日本企業の中でも図抜けていると思わずにはいられない。

さて、繰り返しになるが、自民党はおそらく敗北する。となると、次の総裁は誰になるのだろうか。そう遠くない未来に衆院選をせざるを得ない状況に追い込まれるのは間違いないから、そのときの「顔」に誰を据えるか。小泉の手腕いかにかかってくるが、高市早苗も依然とし

て、その座を窺っていることだろう。最近では麻生太郎との連携にやっきになっていることから、意欲満々というのを見て取れる。石破が焼け野原にしてしまった自民党を再生するなんて役割は誰も担いたくはないだろうけれど、党内基盤が強い高市が総裁になれるとしたら、こうした有事しか無いわけであって、「ここを逃せば次はない」くらいに思っているのではないか。本命に三碧木星を持つ高市にとっては、今年は北西廻座。またとないチャンスだが、破壊殺がどう動くか。小泉になるとすれば、来年の一白水星中宮が早くも動き出すことになる。裏鬼門の未申の月を境に、日本の政局もかなり面白いところに行くと思う。

こうしたことから、自民党内での罅^{つば}迫り合いも激しさを増すのではないか。癸の危険性、激しさがよく分かる。

先日のドローン攻撃によって、ロシアに「一泡吹かせた」ウクライナ。今回、一年半近くも費やして作

戦を展開したわけだが、その情報もいとも容易く公開にいたったのが不思議だった。しかし、その後、ロシアが全てのトラックを検閲することになったことで、合点がいった。

もともとウクライナの狙いはロシアの物流の混乱にあったのではないか。その翌日だったか、日本でも小林鷹之が「経済インテリジェンス」に関する投稿をXにしていたが、今回の攻撃はロシアだけでなく世界中に驚きを与えたのだ。戦争の目的は経済の発展にある。逆に言えば、経済が悪化するような結末が待っているのであれば、戦争をする意味はないのである。ウクライナは直接的にロシア経済を文字通り攻撃したのである。

ただし、ロシアも黙ってはいまい。攻撃から数日後のトランプとプーチンの会談では、トランプが「直接、平和に直結する会談ではなかった」と言ったように、まるで成果は得られなかったのだろう。癸は槍を持っているのである。怒れるプーチン

は、おそらく今月も攻撃の手を緩めない。

ガザも収まりを見せないだろう。今回の国連の決議では、トランプ政権がはじめて拒否権を発動させ、ガザの即時停戦決議案を否決した。声明にハマスへの非難が入っていないのが原因だろう。各国の思惑が流入して淵を作っている中東に、いつになったら平穏な日々が戻るのか。

また、四方から水が流入し、つまり、行く末が見えるのも癸であった。流入する「水」というのは、決してH2Oだけを指すのではない。情報だったり、人口だったり、物流だったりもまた「水」というシンボルの元に置かれる概念である。

物流という意味では「郵便局の不適切点呼問題」の行方を見守りたい。点呼時に酒気帯びの有無の確認も怠っていたというから、あまりにもずさんだ。民営化されたとはいえ、まだまだ「お役人気質」は抜けていないのだろう。僕は以前、元郵便局員のスタッフを抱えていたけれど、

その人はお役人根性が文字通り「骨の髄」まで染み込んでいたような人だった。自衛隊上がりの人も、左翼活動家みたいなことばかりして、まるで自己の能力を高めようという気がない人だった。元公務員の人が全てそうとは言えないのは承知の上だが、やはり組織の文化というものは多かれ少なかれ、その中にいる人間にプログラミングされる。

一昨年の年明け、近くの郵便局に、毎年恒例の福袋を発送に行ったら、「もう今日は営業時間外ですでお引き取りください」と言われてびっくりした。たしかに時計は十七時ちょうどを指していたが、まだ窓口は空いていたのに。目の前の郵便ポストに全て入れて無事発送できたからよかったものの、窓口の局員の態度は「自分たちは引き取りたくないけど、本局の集荷員が引き取るのは辛くない」ということを表していたのだろうか。また、昨年の本誌のゆうメールでの配送の遅延とそれに対する対応も、かなり困らされた。

それ以来、郵便局に対する不信感はどうしても拭えない。

僕はお役人の友人も、郵便局で働く受講生さんもいる。だから、全てのお役人さんが怠惰とは思わないし、郵便局で一生懸命働き、郵便を届けてくれている人がほとんどであることも知っている。それでも、組織全体として、今回の不祥事は許されることではあるまい。

郵便局もまた、かつては民営化される前は、インフラと金融を抱え込んでいた巨大組織であり、総務省のパワーの源であった。それが今回、国交省から不正を指摘されるところに栄枯盛衰を見る。

これによって、ワンボックスやトラックが使えなくなるのは必至なわけだが、ゆうパックはどうするつもりだろうか。自動車による貨物輸送は許可制で、今回、許可が取り消されたことにより、向こう五年は許可を申請できない。届出制の軽自動車とバイクだけしか武器は残らないが、それでヤマト運輸や佐川急便と

戦えるのだろうか。これまで「信書」

を巡り煮え湯を飲まされ続け、その後、和解して協働を始めたものの、すぐに手のひらを返された（ように見える）ヤマト運輸としては、これを「郵便局からシェアを奪う絶好の機会」と見ているのではないか。郵便局から多くの配送員がヤマト運輸や佐川急便になだれ込み、新しい日本の物流の形を見せ始めるかも知れない。ワクワクするひと月だ。ただ、これを口実にさらに郵便料金を引き上げるなんてこともあるかも知れないから、商売人としては手放しで喜ぶわけにもいかないけれども。

他にも今月は「何をどこに集め、どこに流すか？」ということテーマに社会を見ておくと良い。移民問題や機密データの盗難などの話題がニュースに上がると予想する。

未というもの

その天気…癸を受けて、地気は「未」という気を立ち上げる。未というのは「一」が「木」によって「隠

される」ことを示す。一は「陽」であるから、夏にたっぷり葉を茂らせた木々が太陽の光を遮っている様を思い浮かべてもらったら良い。これを説文解字注では「未は昧なり。日中にして^{くら}し」と言っている。季節は夏の終わりでまだまだ日差しが強さを残しているにも関わらず、なんとも暗い十二支だ。

また説文解字では「五行にして木は未に於いて老ゆる」と五行論にも言及している。説文解字注はこれを受け「木は亥に生ず。卯に壯んなり。未に死す」と解釈を加えている。要するに木局三合の説明になるわけだが、こういう字の解釈も面白いものだなあと思う。もちろん、これは「後付」に過ぎず、あくまでも「昧い」が未の中心概念だけれど、古来より伝承された解釈もまた「味」があると僕は個人的に思う。

そうすると、今月は「木が死ぬ」すなわち「気が枯れる」ひと月になりかねないとも言えるのである。確かに七月の終わりから八月にもなれ

ば、梅雨のような降水量もない場合が多いから、必然的に木から水分量は奪われていきかねない。それでいて、日差しは強いから活発に光合成が行われ、水はいよいよ必要となる。そうした中、少しずつ「枯れ始める」と言えるのである。

昨年の十一月くらいに立てた目標はどうなったか。今年の春分くらいまでは情熱が燃えていたのに、ここ最近、尻すぼみになっていないだろうか。こうしたことを考えねばならないのである。

昨年の十一月の大統領選に勝利したトランプの勢いに翳りが出ているのは、すでに「気が枯れ始めている」のかも知れない。同様に十月の衆院選で「辛勝（というか、実質的には敗北だ）」した石破政権は公約の「デジタル化」のところで「全ての手続がスマホで60秒以内に完結できる社会」を掲げていたが、GbiZIDにしろJGrantsにしろ、政府系のデジタル申請は未だに使い勝手が悪すぎる。しかもスマホで60

秒どころか、スマホとパソコンを同時に使わないとできない仕様だ。こうしたことの改善も進んでいることと信じていたが、「やる気が枯れている」なんてことはないだろうか。

また、「デフレ脱却最優先」を掲げていたが、本当に現状がデフレだと言うのであれば、もっと市場にカネを供給せねばならず、したがって「政府が税で市中のカネを吸い上げない」つまり減税が必要になる。にも関わらず、自民党は「減税を参院選の公約にしない」と明言しているのだ。これは「デフレ脱却最優先」が嘘なのか、もしくは「今がデフレである」というのが嘘なのか。いずれにせよ「経済あつての財政」を掲げているのだから、国民生活がもっと豊かになるように、公約を守ってほしいものだ。「日本の財政はギリシャより悪い」という発言をみていると、政権発足半年で財務省に籠絡されたのかとさえ思う。まさか「もう、経済成長を目指すのはやる気がなくなりました」なんて言わないよ

な？その点を、参院選ではよく見しておくべきだろう。

国民側も黙って政府のやりたい放題を許す態度は良くない。投票に出かけるのも一つだし、補助金などの活用も一つだ。どうせ使われる税金なら、自分たちもその恩恵に預かるのも大切な姿勢だろう。

電気代が高いのであれば、窓のリフォームに着手するのも良い。「先進的窓リノベ2025」補助金は二重サッシなどの設置のために要した金額の半分の補助してもらえらる。200万円かかってても実質的には100万円の手出しで済むわけだし、それでいて、月々の電気代が2万円でも安くなれば、四年とちよつとで元は取れる。長く住もうと思うなら、リフォームは必須なのだから、こうした補助金があるうちに考えてみれば良い。残念なのは、こうした補助金が事業所には適用されないこと。だけど、例えば自治体単位で申し込めるものはある場合もある。探してみると良い。

癸未のひと月

今月の天地の気は「癸未」である。今月の中気である「大暑」から秋分までにかけては蒸し暑さが苦しささえ感じさせることになりそうだ。高い湿度のせいで、熱中症を起こす人も増えそう。熱中症に至らなかったとしても、熱が内側にこもり、心身に様々な問題を起こさせることになるだろう。甲子園は大丈夫だろうか。球児たちの夏が、地獄とまらないように関係者の皆様には十分な対策を求めたい。

とりわけ、七月は「六白金星」が中宮するが、これは「心臓」を担当する九星である。熱に弱い臓腑はいくつかあるが、心（臓）がその筆頭。今月は九紫火星が北東で破壊殺を背負っていることもあり、心臓疾患を抱えている人は注意が必要だろう。とにかく十分な除湿と室温の管理を徹底して欲しい。肺と肝も熱を発しやすい。咳が出たら肺の、眼に黄疸が出たら、肝の不調が出てきて

いる。早めに休息を取るようにして欲しい。また、不眠は心の不調であることが多いだろうから、その場合は早めにお医者さんか鍼灸師に相談を。

さらに、高い湿度によってむくみがかかなりきつくなりそう。普段からむくみがちな人はいっそう養生を。夏野菜は利水の働きを持つものが多い。やはり旬のものをしっかりといただくという養生の基本に立ち返るべきだと思う。養生の道は一日にしてならず、だ。

むくみと聞くと、「足がパンパンになっちゃって」というのを思い浮かべる人も多いだろうが、別にむくむのは足だけではない。腎気が弱い人は顔までむくむし、肺が悪くても、肝が悪くても、さらには消化器系の問題があってもむくみは出る。むくみの出方はそれぞれで、その違いは丁寧に見なければならぬけれど、ここでは述べない。ただ、今月は六白金星中宮で九紫火星破壊殺ということから考えても、むくみで頭痛が

出ることも多そう。頭痛というのを甘く見ない方がよい。市販の鎮痛薬に頼っている人もいるが、それは決して否定されるものではないとはいえ、早めに自身の体質と生活習慣の改善を図るべきだ。

社会的にはかなり「グズグズした」動きで停滞感を感じるひと月になりそう。

参院選と言えば、国民民主党のオウngoールと小泉進次郎の登場で、自民党は「大敗」を免れそう。一方で野党は石破政権に「不信任案」を突きつけることはできず、いっそう一体感を失うことになるだろう。

こうした状況を踏まえれば、参院選で自公が議席をいくらか減らしたとしても、過半数は維持するのではない。前回の参院選で自公は七五議席を取っているから、今回は50議席が与党の過半数の維持のラインになる。六月上旬の野党の醸し出す雰囲気では、とてもではないが77議席を奪い取る迫力は無い。もちろん、七月上旬までは「風が強い」と五月

号でも述べたから、まだまだ分からないが、おそらく野党が自公を過半数割れに追い込むだけの風は吹きそうにない。

衆参同日選挙も無いだろうから、おそらく参院選後も変わる可能性があるのは首相のクビくらいなもので、大勢は変わらない。相変わらず、グズグズした政治が続くことになりそう。

ただ、こうした「グズグズ」は決して悪い側面ばかりではない。日本の行政というのは、立法府とは違って、予想以上に粛々と仕事をやる。

だから、良くも悪くも「継続性」は十分に備えていて、たとえ首相のクビが変わったとしても、やることは変わらない。アメリカのように、大統領の権限でいきなり昨日までの行政手続が180度変わったりすることはないのは、国民としては安心なのである。

だから、関税交渉なども、いきなり大きく態度を変えることはないだろう。僕は以前より発言しているよ

うに、現在の態度でのらりくらりとしながら、トランプが折れるのを待つのが良いと思っている。アメリカはトランプ関税と減税の二つのインフレ要因とにらめっこしながらの政権運営になる。コロナですでに悲鳴が上がるほどのインフレになっているのだから、これ以上のインフレにアメリカ国民は耐えられるのか。決して遠くない未来に、トランプ関税は「トランプ自身への爆弾」となることだろう。日本は変わらずグズグズしていれば良いと僕は思う。

企業活動においても、グズグズ感について回る。とりわけ、行政が関わる部分においては、思った以上にスピード感が出ないことと思う。僕も四月に申請を完了した補助金が、未だに入金されないのを不安に思っている一人だ。もちろん、担当者の方が手を抜いているとは思わないけれど、行政手続というのは何段階にも渡って行われるから、どうしても今月の「癸未」の気もたらす停滞感が、手続きの処理に停滞感をもた

らせそうで不安になる。

また、暑さと湿度で従業員の生産性は上がりづらい。業務の見直しを行い、最適化・省力化・効率化を図るべきだと思う。できるだけシンブルに、思考を介在させずに業務を進められるような工夫をしよう。ちょっとした煩雑さも、積み上げれば大きなストレスとなりかねない。

だるいような暑さを払拭するため、今年の夏は辛いものが求められそう。湿度で体内の水分を毛穴から発散させづらいからこそ、汗をかける食べ物を求める人が増える。あまり汗をかきすぎるのは鍼灸師としてはオススメできないのだけれど、一般の人はそんなこと言ってられない。カレー屋さんなんかは、かなりの集客が見込めるだろう。僕もたぶん、名古屋の出張の際は、名駅の地下の吉野家で「牛魯珈カレー」を食べることだろう。美味しいんだ、これが。

同時に、熱を取ってくれるような飲食物も売れる。カレー屋さんなら、

ビールも同時によく出るだろう（さすがに僕は昼からビールは飲まないが）。アルコールは利益率が高いから、しっかりと準備をしておくと思う。

かき氷もかなり売れそう。これもまた、東洋医学的には「やってほしくない」ことなのだけれど、この暑さなら仕方なし。僕はかき氷はあまり好きではないのだけれど、ミニストップの「ハロハロ」だけは、数年に一度、食べたい衝動に襲われる。今年もあの衝動と戦わねばならないのだろうか。伊勢に行くなら、赤福氷をぜひ。かつて、一度だけ食べたことがあるのだが、そのときは息子と半分こしたら、中に入っている赤福を全部息子が食べてしまって、僕は上のにっっている抹茶のかき氷の部分だけ食べて「赤福氷、うめー」と言っていた。いつかリベンジに行きたいけれど、今年は難しいか。

暑くて重苦しい夏になりそう。色々な場面で、この暑さへの対策をしつかりとしておいてほしい。当院

では、暑さに対抗しようと冷やした身体を温める灸を用意しておく。

中宮は六白金星

その「癸未」の氣を受けて、人の氣は「六白金星」が中宮する。六白金星は「選択と集中」がテーマになる。癸は「道筋」であるのだから、今月はとりわけ「自分たちはどこに向かうのか」を考えるべきであり、それは言い換えれば「いかない道を捨てる」ということであると知っておきたい。

僕は「効率化」という言葉があまり好きではない。効率化によって省かれてしまったところに可能性が落ちていることなんてよくあることだからだ。

それでも、どこまでも不要な枝をもち続けるわけにもいかない。だからこそ、広がった枝を剪定すること、四緑木星のあとに五黄土星の「戊」と六白金星をもって九星氣学は我々に要求するのである。

年金の改正法案を読んだ。社会保

障というのは、社会の変容に併せて変わっていかねばならない。だから、改正はどうしたって必要で、それによって「今まで恩恵を受けられていた人が恩恵を受けられなくなる」可能性が生じるのは仕方ない。今年は五年に一度の年金制度改革の年。これを読むと国が「どこに向かうのか？」が見えてくる。

遺族年金が五年の有期となった。これに怒っている人も多いだろう。これは要するに「いつまでも塞ぎ込んでないで、働け！」という明確なメッセージだ。五年という年数が長いか短いかは分からない。僕だって、妻を失って五年で妻の分まで働けるようになるかと言われれば「はい」とは言い難い。ただし、全ての人が一律で「五年で支給終了！」というわけでもない。収入が低い人や障害を持つ方には、現行通り無期で支給される。また、支給される金額も増額されそう。『有期給付加算（仮称）』という仕組みだが、この辺は理解されてから批判はすべきだろ

う。また、今回の改正の目玉は「男女格差の解消」だ。詳しくは述べないが、この改正によってメリットを享受できる人もいる。要するに「全体を減らそう」というよりも、支給の予算の付替えと考えた方が良い。今回は小さなお子さんがいる状態で配偶者が亡くなってしまった方の生活をしっかりと守るという国の明確な意志だ。ここで「子どもがいない人は排除するのか?!」という批判は当たらない。そもそも保障というのは保険商品だって詳細に支給の条件を決めるものだ。もちろん、国は様々な意見を聞いて、「不幸の最小化」に努めねばならないのは当然だ。その結果としての今回の改正なのだろう。

また、在職老齢年金は支給停止のラインが上がる。これまでは月50万円以上の収入がある場合は公的年金を受け取れなかったのだが、今回の改正でこのラインが62万円まで引き上げられる。これによって、「高齢者の働き控え」を減らし、現

役世代のように働けるようになる。

国としては支給停止ラインを引き上げて、新たに支給する対象が大幅に増えるわけではないが、これまで50万円で働いていた人が62万円で働くようになれば、所得税も社会保険料も上がることになるので、実際には「お得」なのである。これは「老後も身体が動くなら、働け!」という明確な国のメッセージだ。健康寿命が伸びているのだから、「老後」の定義も変えねばならないだろうから、これも仕方ない。仕方ないとはいえ、実質的には高齢者への減税になるのが自公政権「らしい」と言われても仕方あるまい。高齢者が若者から「仕事を奪う」ことにもつながりかねないのだから、若者としてはもっともつと力をつけねばなるまい。

もう一つは「106万円の壁の撤廃」。労働時間が週20時間を超える場合は、社会保険に加入しなければならぬ。これは明らかに増税と言って良い（社会保険料も実質的に

は税金だから）。知っておいた方が良いのは、社会保険料により手取りが減る影響を緩和するために、労働者が「新たに」負担することになる

社会保険料の一定割合を「国が負担する」という点。僕は労働時間の要件も撤廃すれば良いと思っているタイプ。それでいて、全体の社会保険料を下げてくれれば良いと考える。だけど、今回の改正では社会保険料

の料率を下げるどころか、税金を投入して新規加入者の負担を減らすというのだ。うちの会社のように、元々

社会保険に加入していた人から見れば、「今まで社会保険から『逃げていた』人」たちがようやく「まともに」加入するようになったのはいいけれど、そのために税負担を背負わされて、なおかつ新しい人達は優遇されるといふのだ。厚生年金の上限の引き上げがなされたのは良いことだけれど、僕の立場からは全体的には「増税」で「改悪」だな、という印象だ。

こうした改正は「政府が悪い」と

いうよりも「社会が変容した」ことによって生じている。もっと言えば、国が見据えている「未来の国の形」を示唆している。

国は「誰に稼いでもらい、税金を払ってもらおう」と考えているのか。それを理解することで、我々が国に何を期待されているかが見え、すなわち「今後、日本という国でどうやって生きていくべきか」が見えてくる。参院選を控え、各党の公約も目を通しておこう。「選択すべき未来」がきっと見えてくると思う。

また、今年は六白金星が小児殺を背負っているが、その六白金星が中宮に入ることから、今月は「子どもにまつわる悲しいニュース」がたくさん起こりそうだ。子どもの登下校の列に車が突っ込むなんてこともありそう。また、「若者の未来を奪う」という意味からパワハラの種類なんか也大いに問題視されることになるだろう。未だに収まりを見せない「中居問題」だが、今月はさらに新しい事実が明らかになるかも知れない。

天道は東の四緑木星

今月は東の四緑木星が天道を背負う。夏のボーナスが支給され、また子どもたちが夏休みに入る今月、旅行業は好調だろう。特に航空会社はかなりの利益を出すことだろう。

二〇二五年三年度のANAとJALの決算は対称的なものだった。どちらも増収を果たしたものの、ANAは減益、JALは増益となった。ANAは人的投資が減益の要因の一つとのこと、これが未来の利益になると考えたいが、次年度の決算予測も減益となっているのが気になる点だ。

ただし、今月は木局三合を三碧木星と四緑木星と七赤金星で作っている。一方で九紫火星は破壊殺を背負っているであって、今月に限ってはANAの圧勝となる予感がする。僕は同会が三碧木星だから、航空会社は「青組」のANAと決めている。コロナ禍からの復活で出遅れたANAに今月は期待したい。

五黄殺は南東

今月五黄殺が南東に入る。四緑木星は天道を背負う一方で、本籍地に五黄殺が入ることも見逃せない。旅行業は好調とは言え、場合によっては機体の整備不良による事故や欠航などがニュースになることもあるだろうし、ホテルなどではネガティブな口コミにより大打撃を受けることもありそうだ。旅行業界にある人は、気を引き締めて今月に臨もう。

さて、今月は「信用」が崩れかねないひと月。クレジットカードの引き落とし口座は残高を常にチェックしておくとうまいだろう。一度失った信用は取り戻せない。

国民民主党から参院選に立候補する山尾志桜里は失った信用を取り戻せるか。なかなか難しいことだろうと予想する。議員パスの不正利用、地球数周分のガソリン券の購入、そして不倫と数々の疑惑を残したまま一度は政界を去った彼女だが、最大の問題は「謝れない」ところにある。

る。どこまでも「私は悪くない、悪いのは他人」という態度が、この人の政界復帰を阻むと思う。結果として四緑木星の玉木代表率いる国民民主党は躍進できずに終わるのではないだろうか。

暗剣殺は北西の七赤金星

今月は北西の七赤金星が暗剣殺を背負っている。新米の入荷までもう少しの今月、政府と流通業者の暗闘は続くことだろう。

沖縄など、一部地域では今月、収穫期を迎えるところもある。昨年から指摘しているように、今年の米は豊作となると予測している。そうすれば流通量は回復し、価格は一段落となるかも知れない。とりあえず、三千円代には収束していくのだろうと予測している。

飲食店では、米の価格に神経を尖らせているだろうが、それ以上に今月は食中毒に気をつけて欲しい。細菌性の食中毒は七月から八月にかけて最も増える。十分な消毒と加熱で

ほとんどが防ぐことができるのだから、油断をしないこと。

この時期に多いのはサルモネラ菌。鶏刺は避けるのに越したことはないだろう。豚肉もしっかりと加熱して食べるように。

破壊殺は北東の九紫火星

今月は北東の九紫火星が破壊殺を背負う。カナダでは五月、例年になり早さで「山火事シーズン」に突入した。アメリカでは七月四日の「独立記念日」の花火が原因で、この日の山火事の発生件数が際立って多いことが明らかになった。

日本では湿度の高さから、夏場はあまり山火事は発生しないが、それでも今月の気の配置を見れば油断はできない。

また、山でなくとも高層ビルの上層階で火事が発生することもありえると思う。十分に注意しておきたい。エレベーターの事故が起きるかも知れない。整備不良や作業手続きの不備により怪我人が出かねない。